1. 議題

①高齢者の現状と課題を踏まえた介護予防の取り組みについて
②瑞浪市教育支援センターについて

2. 場所・時間

①高齢者の現状と課題を踏まえた介護予防の取り組みについて
場所：瑞浪市役所　５階　第一委員会室
時間：令和６年５月 30 日　13：30～15：00
②瑞浪市教育支援センターについて
場所：瑞浪中学校　会議室
時間：令和６年６月５日　14：30～16：00

3. 講師

①高齢福祉課
②瑞浪中学校：薄井校長、今村教頭　学校内教育支援センター：古田相談員
校外教育支援学校：清水室長　教育委員会事務局：浅井事務局長、水野課長補佐

4. 参加者

総務厚生学教委員会　全員

5. 主な講演内容

①高齢者の現状と課題を踏まえた介護予防の取り組みについて

第二ステップの主な視察内容

高齢福祉課より第 9 期瑞浪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を基に勉強会を行った。はじめに高齢福祉課長は、「介護予防サービスによって、重度者率が低くなった。要介護者は、東濃五市で低い。」と言われた。

要介護（要支援）認定率の比較

	瑞浪市	多治見市	中津川市	恵那市	土岐市
要介護（要支援）認定率%	15.5	15.2	17.4	17.0	16.5

資料：地域包括ケア「見える化」システム 令和５年３月末現

要介護認定率が低い理由として、一般介護予防教室・出前講座・自主グループと、ボランティアの通いの場の充実であると言われる。一般介護予防教室では、「体つくり体操」を中心に行っている。包括支援センターでは、その他にもスナッグゴルフ・陶芸などニーズに合った教室も行っている。出前講座では、地域のサロンや長寿会などで行っている。

介護予防教室は、広報みずなみ・ホームページ・ポスターなどで広報していると共に、60 歳.65 歳.70 歳など節目の年に案内を配布しているが、リピーターが多く、新規者が少ない。男性の参加者が少ない。免許返納などの交通問題がある。とも言われた。

ボランティアの通いの場として、ささエールが挙げられた。ボランティアは「将来の自分のために」という思いで活動をしている。その活動にはポイントが付与され、昨年から、1 ポイントを 50 円⇒100 円に値上がりした。また、ポイント換金を 10 ポイント⇒5 ポイントと換金しやすくなった。などの創意工夫点もあった。

第二ステップの議員間討論

6/25　第一委員会室で議員間討論を行った。議員間討論は、はじめに各議員から、視察を終えて成果と課題について自由に発表した。その発表で最も多かった内容について、自由討論を行った。委員会メンバーからの主な意見が多かったのは、

①　今の 60 歳は若い。介護予防教室の勧誘を引き上げる必要がある。また、楽しくできる方法が必要である。

②　(①意見と反対に)40 代でも軽い運動が必要である。地域と一緒にできる運動のクセを付ける必要がある。

③　ささエールポイントは、使い勝手が悪い。役に立たない。

④　地域でどのように支え合うのか、どの様に行えば良いのか。組・区の近所との付き合い方が大切になると考える。

⑤　高齢・介護の問題は、多数の課に複雑のマタガッテいる。たて割り体制を見直す必要がある。

⑥　地域によって介護予防の考え方も違う。陶町の場合、水上の高齢者が介護予防教室のために、陶コミュニティーまで行くのだろうか。交通に問題があると考える。

以上の意見があった。

①瑞浪市教育支援センターについて

第二ステップの主な視察内容

第二ステップの講義を受けて、瑞中では**「居場所づくり、絆づくり」(安心してコミュニケーションが取れるところ)を目標**としていることが分かった。

思春期の不安定な生徒の悩みなどを聞く教室がある。そこには、校内教育支援センター員(ベテラン教師の古田先生)が生徒の相談や悩みを聞き、アドバイスを行っている。多い時は1日当たり12名の生徒が利用し、**一人のセンター員では大変であることが分かった。**また、相談室と言われる不登校生徒専用の教室では、4名の生徒が利用していた。昨年は12名の生徒が利用していた。「不登校生徒になる要因は何か。」との質問に対し、古田先生によると、不登校生徒になる要因は、「生徒の不安・無気力」と言われているが、それだけが要因ではない。いじめがキッカケで不登校になった生徒は0.1%と大変に低い。**「学校でも不登校の原因は分からない」**と言われていた。しかし、**時間をかけて、生徒の特性を見極めて対応することが大切である」**とも言われていた。

学校外支援センター員(ベテラン教師の清水先生)は、**こぶし教室の生徒は17名。相談者数は900名と非常に多いことが分かった。**清水先生から「中学3年生のA子さんは、自主学習をしているが、期末テストの国語が97点と高得点である。」　「中学生のB子さんは、スケジュールが細かくキチンとした性格」と素晴らしい能力を持った子どもたちである。しかし、**リアルな交流ができない。そのため、集団でゲームをする。**ゲームとは、缶けり・手叩き・ボードゲームなど、電子ゲームのような個人プレイのゲームではなく、昔の子どもが集団で遊ぶゲームを行っている。これによって、交流の方法を少しずつ訓練していると言われた。

第二ステップの議員間討論

6/25　第一委員会室で議員間討論を行った。議員間討論は、はじめに各議員から、視察を終えて成果と課題について自由に発表した。その発表で最も多かった内容について、自由討論を行った。委員会メンバーからの主な意見が多かったのは、

①　先生は子どもたちに寄り添って、素晴らしい関係性を持って、相談や指導をしていただいていることが分かった。

②　先生が不足している。予算を増額するべきである。

③　不登校(発達障害を含む)生徒も何かのキッカケで、立派な社会人になっている。高校では不登校になっていない人もいる。その子の特性を認めてあげることが大切であると考える。

④　人によって、立ち止まる時間がある。その子にとっては小中学校であった。親が焦り・周辺がアオッたりすることは逆効果である。

以上の意見があった。

6.おわりに

令和6年度の総務厚生学教委員会の勉強会のために、学校教育委員会事務局及び高齢福祉課には大変にお世話になりましたことを感謝申し上げます。

令和6年度は、テーマを決定し、このテーマを基に議論を進め、9月末頃に本委員会として政策提言を市長に提出する。また、11月頃に市民に委員会の活動を報告することが目標である。そのためには、第一ステップから第五ステップまでのスケジュールを作成した。主なステップ内容は以下の通りである。

第一ステップは、テーマの決定
第二ステップは、市の現状を把握する。
第三ステップは、先進事例を学ぶ。
第四ステップは、政策提言
第五ステップは、市民に報告　としている。

本報告書は、第二ステップまで完了したので、その報告を行っているが、結論や仮説などの個々の議員がどの様な理想を持っているか、どの様な改善方法を持っているか、などについては、ここでは述べることしていない。